

地域福祉の推進力 ボランティア

問い合わせ
福祉課 ☎2152



少子・高齢化の進む中で、地域のつながりが希薄になってきている現在、市民と行政との協働によって、安心して充実した生活ができるよう、地域福祉の推進にボランティアの果たす役割は、年々大きくなっていきます。市内には多くのボランティア団体があり、さまざまな活動を行っています。今回は、このボランティアの活動を紹介します。

市民自治
地域力
結集

「この地区に住んでよかった」と思える地区にしたい

元三福祉ネット

元町三丁目に、安心して暮らせる地域づくりをめざし、平成13年から活動している地域ボランティアグループ「元三福祉ネット」があります。会長の中川公嘉さんに、多彩な活動についてお話を聞きました。

どんな活動をされていますか。

活動の一つとして、民生委員さんと連携して、一人暮らし高齢者の安否確認や掃除、ゴミ出しなどのお手伝いをしています。奇数月の第3日曜日には、軽トラックを用意して、家庭の粗大ゴミの搬出と市環境整備課までの運搬を手伝っています。お年寄りや女性、また車をお持ちでない方などから大変喜んでいただいています。ほかにも長期療養者のお見舞いや長寿の方へのお祝い、ゴミステーションの柵の設置、小瀬川河川敷フラーロードの清掃活動への協力なども行っています。また、資源ごみの回収、分別作業で出たアルミ缶を売却した収入を活動費の一部に充てたりもしています。

活動の工夫や思いなど

高齢者が増えていく中で防犯・防災面からもお年寄りの心の支えになればと思っています。苦勞というわけではないですが粗大ゴミの搬出・運搬について過分なお礼などをいただくことのないよう、少しの負担で利用しやすいよう工夫しています。会員の数は、男性10人、女性8人の計18人で、平均年齢は、73歳ですが、みんながこのような活動をすることで健康も維持できています。これからも元町三丁目に住んでよかったと住民のみなさんが思っていただけのような地域づくりをめざして活動していきたいと考えています。



唄と踊りで若返り

ちくば かい 竹波会

平成7年から、高齢者の介護施設などを中心に、唄と踊りで慰問活動を続けている竹波会。ゆうあいホームを慰問中の竹波会を訪ね会長の草津チズ子さんに聞きました。

「竹波会」と命名した理由は

会員は市内の各地区から集まっているので大竹の「竹」と玖波の「波」をとって「竹波会」としました。現在は18人で活動しています。

活動を始めたきっかけや、これまで活動してきたの思いなど

きっかけは、公民館の生涯学習グループで踊っていたメンバーがある施設の職員から慰問の依頼を受けたのが始まりでした。慰問中には必ず一人一人に声をかけるようにしています。知った唄ならいっしょに歌ったりして脳の活性化を促すことも狙っています。最初は施設に入所されている方もとまどいがありました。そのうちに踊りや衣装をほめてくださるようになりました。時には厳しい意見



もいただいで、逆に励みになることもあります。

ただ、月に1回の訪問先なので、先月にいた人が今月いなくなったりするとすごく心配になります。しかし、施設に来らしていただくことに私たちも大変感謝しているし、みなさんの楽しんでくれる笑顔を見ることが何より活動のエネルギー源になっています。

「高齢者の閉じこもり」をなくしたい

なかよしサロン

毎週火曜日の13時、玖波七丁目集会所で書道に親しむグループがあります。活動を始めて6年目、地域の高齢者の閉じこもりを防ぎつつまでも元気に楽しく生きることをめざして活動を続けているボランティアグループ「なかよしサロン」のみなさんです。代表の星野則江さんに聞いてみました。

活動を始めたきっかけは

初めはこの集会所をもっと有効に使おうということでした。特に習字の好きな人が集い定期的に続いています。

活動していて楽しいことは

一人で家にも減入るだけなので、こうしたところに来るのが楽しみです。みんなと話してニュースや地域のよもやま話が聞けるのもとてもいいと思います。

習字の講師はいるのですか

講師はいません。習字が上達するのが目的というより、ここに来て手を動かすことやおしゃべりをするのが大切と思っています。参加者は70歳代から80歳代の方が



多い中で実際にここで毎週、手を動かしているおかげで病院での書類にもすらすらすらと書けるなど効果は抜群です。

活動している上での悩みや苦勞がありますか

外に出たがらない人もいます。そういう人を誘うのがなかなか難しいです。新しいメンバーも増やしていかたいと思います。60歳代はまだ働いている方も多いので日中は参加が困難です。体調が悪くて来られない人もいますが一人一人に声をかけていきたいと思っています。

市内では、他にも多くのボランティアグループが活動しています。

ボランティアに関心のある方、また、ボランティアの登録を希望する方は、
社会福祉協議会（☎02233）にお問い合わせください。

平成24年度大竹市社会福祉協議会登録ボランティアグループ一覧表

No.	グループ名	No.	グループ名
1	点字サークル あげぼの	18	油見地区「油見いきいきネットワーク」
2	手話サークル「さつき」 夜の部	19	元町3丁目地区「元三福祉ネット」
	手話サークル「さつき」 昼の部	20	油見地区「とうがきの会」
3	「あげぼの」音訳グループ	21	木野1丁目地区「フレンド中津」
4	ガイドヘルプボランティアグループ	22	本町2丁目地区「絆」
5	要約筆記サークル「ふたば」	23	玖波地区「ひばりの会」
6	手話サークル「ママとKAMEの会」	24	新町2丁目地区「爽風会」
7	西栄地区「コスモスの会」	25	玖波4丁目地区「よつ葉会」
8	黒川地区「たんぽぽの会」	26	ボランティア「あいいく館」
9	小方地区「野菊の会」	27	ボランティア「パンダの会」
10	御園地区「もみじの会」	28	ボランティア「友の会大竹グループ」
11	新町3丁目地区「新聴くの会」	29	三ツ石地区「ホタル会」
12	小方地区「のぞみの会」	30	玖波町地区「スマレ会」
13	栗谷地区「岩かがみ」	31	ボランティア「そよ風の会」
14	障害児者援助グループ「りじょいす」	32	ボランティア「なかよしサロン」
15	ボランティア「竹波会」	33	ボランティア「藤美会」
16	元町地区「ひよこの会」	34	ボランティア「音の花束・ほっと便」
17	元町2丁目地区「元二ネットサルビア会」		

子どもから高齢者まで市民が住み慣れた地域で安心して充実した生活ができる地域社会をつくるため、市民と行政との協働による地域福祉を推進することが必要です。市では、平成19年に策定した地域福祉計画を見直し、地域における福祉全般のサービスマネジメントの向上を図ってきたいと思っています。この計画のためのアンケートを市内在住の18歳以上の方から無作為で選んだ1,000人の方にお送りし、ご意見を伺いたいと思います。ご協力をよろしくお願ひします。



地域福祉計画策定のためのアンケート調査にご協力ください

パンダの会

毎月第1木曜日の午前、新町三丁目集会所で親子のにぎやかな笑い声や歌声が聞こえてきます。多い時には40人を超える参加者があつた子育て支援ボランティアグループ「パンダの会」は、平成14年から活動をしています。ボランティアスタッフは、12人。元保育関係者や元学校関係者、そして保健師と、専門的で多彩なメンバーがそろっています。企画は毎月担当を決め、クリスマスや節分、おひなまつりなど恒例の季節行事をはじめ、おもちゃづくりや健康づくり、更には川柳までいろいろなメニューで参加者に楽しんでもらっています。取材の日にはちょうど七夕飾りの作成の真っ最中でした。用意した笹に親子で思い思いの飾り付けを施し、記念写真を撮ってもらって参加者のみなさん大変楽しそうでした。代表者の村重美代子さんに聞きました。



毎月、親子で何かを作ってもらいおみやげに持って帰ってもらっています。ことや必ず写真を撮って記念にすることです。担当になった月のスタッフは、企画を一生懸命考え、なるべくお金のかからない方法で準備をしてくれたいです。そのおかげで参加者のみなさんからは、材料費などでもいただいています。活動してきて苦労などがあります。スタッフが少なかつた時期もありましたので、その時は大変でしたが、新しい人も加わってくれたりして現在は、充実しています。若い人と接することでこちらもパワーをもらっています。

「内容の濃い、でもお金のかからない」子育て支援に取り組んでいます

点字サークル あげぼの

市の広報紙や議会だより、ごみカレンダーなどを点字に訳し視覚障害の方の情報収集の手助けをしているグループです。グループの結成は昭和54年で、すでに30年以上活動していることになりました。取材した日は、市の広報を点字に訳しているところでした。ページ毎に担当を決めて自宅で点訳したものを2人がペアで間違いがないかチェックし、専用の紙に印字して仕上げました。その工程は、とても繊細で正確さが要求されます。点字特有のさまざまな決まりごとを守り、いかにして視覚障害者の方に読みやすくできるかなど苦心されているようです。グループの代表の小清水百合子さんに聞きました。



の広報紙にしても表やグラフ、写真や地図などが多く、それらをどのようにして障害者の方にわかりやすく表現するかなど苦心するところもあります。まずは基本的に忠実に正確に打つことを心がけています。小・中学校に点訳指導にも行きますが子どもたちが興味を持って、いつも大変熱心に取り組んでくれることはうれしいことです。

ガイドヘルプボランティアグループ

視覚障害者の方が外出するときや行事などへ参加する場合のお手伝いをされています。代表者の下向井ハツ子さんは「グループの認知度がまだ低いようです。希望される方は気兼ねなく相談して欲しい。」とおっしゃっていました。

視覚障害者の方のお手伝いをしています